

令和4年度の重点課題

○第5学年男子
・「上体起こし」「長座体前屈」において、県平均値かつ全国平均値より低い。

○第5学年女子
・「50m走」において、県平均値かつ全国平均値より低い。

○児童アンケートより
・体を動かすことに対して、否定的な回答をした児童が13%いた。
・得意な運動と苦手な運動についての回答は、ともに「登り棒」が最も多く、腕力の二種化が窺える。

上記の課題を受けて具体的に
取り組んだ事項

○体育の授業でICT機器を積極的に活用し、自分の体を動きを客観的にとらえられるようにした。

○運動が苦手な児童も、達成感が味わえるよう、個人の成長に焦点を当てたワークシートや振り返りを充実させた。

○準備運動と基礎体力の向上を兼ねて行っている本校独自の運動「吉川セブン」について、自分の目標を設定してより主体的に取り組めるようにした。

○「上体起こし」を準備運動に取り入れた。

○長期休業中にも家庭で運動に取り組めるように「体力アップカード」を見直した。

○朝・昼の時間を活用して、苦手な児童も楽しく運動できる時間を確保した。

令和5年度新体力テストの結果 県平均値(令和4年度)・全国平均値(令和3年度)との比較

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	17.33	23.00	35.00	42.67	52.33	9.90	146.00	19.33	55.33	第5学年	16.00	17.75	43.50	42.25	40.25	9.65	145.50	17.75	58.50

県平均値が全国平均値未満

令和5年度新体力テストの結果 県平均値(令和5年度)・全国平均値(令和4年度)との比較

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	17.33	23.00	35.00	42.67	52.33	9.90	146.00	19.33	55.33	第5学年	16.00	17.75	43.50	42.25	40.25	9.65	145.50	17.75	58.50

県平均値が全国平均値未満

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか

男子	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い	女子	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
第5学年	100.0	0.0	0.0	0.0	第5学年	50.00	25.00	25.00	0.00

学校独自の意識調査

本校では、全児童を対象にした、運動への意識調査を実施した。右表は、「スポーツや運動、体を動かす遊びは好きですか。」という問いへ	とても	まあまあ	あまり	まったく
	33	12	3	2
	66%	24%	6%	4%

重点課題に対応した改善する取組内容及び方法

体育の授業で行う取組内容

- ・正しい体の使い方やポイントを知るため、「自分の体の動きを客観的に把握し、改善するため」に引き続きICT機器を積極的に活用できるようにする。
- ・動画資料等を活用して正しい走り方のフォームを指導し、低学年時から意識して走ることができるように重点的に取り組む。
- ・定期的に50m走のタイムを計る機会を設け、目標に向けたモチベーションアップにつなげる。
- ・運動が苦手な児童も積極的に取り組めるように、個人での成長を感じられるようなワークシートや振り返りを充実させる。また、技能向上のための単調な練習ではなく、ゲーム性を取り入れた運動

体育の授業以外で行う取組内容

- ・朝のドキドキタイム、昼のロング昼休憩を効果的に活用し、いろいろな種類の「鬼遊び」や「走の運動」を取り入れ、楽しみながら走る量を確保する。また、普段あまり運動をしない児童も、楽しく運動ができる時間を確保する。
- ・長期休業中も家庭でできる運動を紹介し、「体力アップカード」を通して、運動を自己決定しながら積極的に取り組めるようにする。
- ・全児童を対象とした意識調査を行い、取組を随時見直せるようにする。

重点課題

- 新体力テストの結果より
・男女ともに、「50m走」の記録が全国平均値・県平均値を下回っている。
- 児童アンケートより
・「スポーツや体を動かす遊びが好きですか。」の問いに否定的な回答をした児童が10%程度いる。(主な理由は、「走るのが苦手だから。」「運動をすると疲れるから。」)

令和6年度の
重点目標値

- 男子・女子ともに「50m走」について、全国平均値と同程度になるようにする。
- 運動やスポーツ・体を動かすことに対して肯定的な児童の割合を、95%以上にする。